

議会だより

令和6年8月1日

No.50

目次>>

P2 令和6年度 第2回定例会

P3~6 一般質問 4名7件

全員協議会

「認定こども園開設に向けた検討を開始」

P7 所管事務調査

P8~9 議会報告会「議員と語る会」

P10~11 北海道町村議会議員研修会

行政視察

増毛町「鉄鋼スラグを利用した藻場再生事業」

札幌市「不登校特例校 星槎もみじ中学校」

P12

この人に聞く

地域おこし協力隊 属 康(さっか やすし)さん

えりも町議会第2回定例会

補正予算

◎令和5年度
一般会計(歳入)

・Jブルークレジット公募
譲渡代金 120万9千円

・Jブルークレジットの売却金
(7ページ参照)

◎令和5年度
一般会計(歳出)

・企業版ふるさと納税基金
積立金 100万円

・企業版ふるさと納税の寄付を基金に積立

・映画製作観光推進基金積立金 520万円

映画製作費のために寄付された企業版ふるさと納税20万円と企業からの一般指定寄付金500万円を基金に積立

◎令和6年度
一般会計(歳出)

イワシの清掃費用等に
総額3900万円

5月19日にえりも港に大量に入り込んだイワシの調査と処理費用

・港湾管理費手数料 62万5千円
水面に浮いてきたイワシの廃棄物処理手数料

・港湾管理費業務委託 126万5千円
水中荷捌施設やえりも港内の海底を確認するダイバーの費用

・港湾管理費重機借上料 3700万円
水中荷捌施設の海底に堆積したイワシの清掃費用

・港湾管理費重機借上料 11万円
清掃作業後にえりも港内の海底を確認する作業船の借上料



えりも港で海底に堆積したイワシを清掃ポンプ車で汲み上げる作業

消防ポンプ自動車 次年度購入へ

・繰越明許費
消防費 9242万8千円

今年度購入を予定していた消防ポンプ自動車は令和7年度の購入となったため繰越明許費を設定

繰越明許費とは…

歳出予算のうち、年度内に支出されない予算を翌年度に繰り越すこと

人事

・人権擁護委員の選任

本町 中村 幸子 (62歳)
再任

・えりも町教育委員の選任

大和 田名部 光一 (52歳)
再任

・えりも町選挙管理委員及び補充員の選任

委員

新浜 山中 智彰
本町 芳賀 則雄
本町 神田 和子
庶野 吉田 康秀

補充員

新浜 齊藤 友宏
本町 江川 ルミ
歌別 三浦 優子
新浜 佐々木 智

問 高校生までの医療費無償化を

答 現状を検証しながら引き続き検討する

答 保健福祉課長
昨年8月受診分より中学生までの医療機関

問 中野 議員
昨年8月から中学生までの医療費が無償化となり、保護者には好評を得ているが、道内の市町村の約7割超の自治体が高校生までの医療費無償化に取り組んでいる。

以前の答弁では、国の「異次元の少子化対策」の動向を見ながら、このことであつたが、地域の子どもは地域全体で育てる考えがなければ少子化は止められない。



中野公浩議員

高校生までの医療費の無償化が望まれる



窓口における一部負担金等の無償化を図るとともに、これまでの子育て応援券方式からカード方式に変更することで、医療費助成の適用拡大及び手続きの簡略化を行った。

現段階においてこれで完結とは考えておらず、制度導入における医療費の増減や、今回の助成制度拡大が国保における国庫負担金に与える影響などを検証しながら、さらに検討を進めていくことが必要と考えている。

町としても国が進める「異次元の少子化対策」の動向も考慮しながら引き続き検討したい。

問 豊似岳を新しい観光資源に

答 ホームページ掲載やポスター作成を検討する

答 産業振興課長
①国立公園化にともない、町の観光ホームページである「えりも観光ナビ」の内容も再検討する必要があると考えており、その際にポスターの作成も含めて検討したい。

問 中野 議員
日高山脈襟裳国定公園が国立公園となり、日本国内外から注目されることとなる。

えりも町には「豊似岳」という素晴らしい山があり、新たな観光資源になると思うため、広く周知してはどうか。

①豊似岳を空撮し、ポスター作成やホームページ掲載を。

②安全な登山のため登山道の整備を。
③追分峠頂上のゲートを解除し登山道入口まで車で行けるようにしては。
④安全に登るためにガイドマップの作成を。
⑤ふるさと納税の返礼品に、ガイド付きの豊似岳登山ツアーを。

②今後作成される国立公園のパンフレットにも豊似岳の紹介がされると思うが、町独自でガイドマップを作成する場合は検討したい。

⑤現状、ガイドできずる方が何人いるかなど不明な点が多い。

平取町の幌尻岳のガイドツアーが人気であると聞いているので検討の余地はある。

③肉牛牧場内は山林深くに林道や作業道などがあり、事故防止やゴミの不法投棄等のためにゲートを設置している。



豊似岳の頂上から望む日高山脈はまさに絶景である



高松亮裕議員

昆布おかまわり求人募集に 全力で対応を

問 高松 議員

教員へのおかまわり推奨は 現時点では難しい

答

昆布おかまわりの求人募集が5月22日から町のホームページに掲載が始まり、現時点で11の事業者が16名の昆

布おかまわりを募集しているが、未だに契約に至っていない。

公務員が地域貢献のために勤務時間外に副業することも推奨される時代になり、役場職員はもとより転入された教員や自衛隊員、民間企業で働く人、釣り人等に積極的に働きかけていくべきでは。

また、3事業者は「住み込み可能」となっており、縁のある道内の大学に求人募集のポスターを掲示してもらうことはできないか。

答 産業振興課長

公務員の副業は、地域貢献に関する場合、業務に支障のない範囲で任命権者の許可を得れば認められるケースがあるが、原則禁止となっている。

釣り人は基本的に釣りに来ているので、労働力として期待できないのではないか。

周知ポスターは、役場戸籍窓口、風の館、キャンプ場、目黒ふれあい館に既に設置済で、道内大学にポスターの掲示をお願いすることは今年度は時期的に難しい。

答 学校教育課長

公立高校における教員の副業は、一般職の公務員同様に原則禁止だが「教育に関する」他の職に従事する場合に限り教育委員会が承認すれば可能である。

これまでも、えりも高校の教員が模擬試験等の監督や講師をする場合に、教育委員会が承認してきた。

昆布おかまわりについても役場職員同様、任命権者の許可があれば可能だが、睡眠不足や疲労による業務への支障、児童生徒に関わる学校特有の問題、時間外・長時間勤務の解消などの働き方改革が進められていることなどから、現時点では「教員への積極的な働きかけ」は難しい。



役場窓口ポスターを掲示し転入者に周知

問 高松 議員

昆布・災害の地域課題解決のための ワークショップの開催を

問

2021年8月、日本女子大と日高管内7町が協定を結び、地域の活性化と課題解決を模索する「日本女子大日高ワークショップ」

答 提案の企画を大学側と協議したい

という交流連携事業を開催してきた。

昆布の一大産地である当町で昆布採取から製品になるまでの一連の流れを体験し、昆布を使った料理作りにも挑戦する中で、昆布の資源量減少や後継者・おかまわり不足の現状を知ってもらっては。

宿泊場所は生活館等を利用し、津波発生時の避難生活を体験するとともに、陸の孤島となる現状も理解してもらい、町外の若者目線で解決策を模索するという企画を提案してはどうか。

答 企画課長

昨年度は光の園幼稚園や疑似町幼児センターで保育施設における運動支援事業を実施した。今年度の予定は確定しているが、来年度以降提案の企画が実現できないか大学側と協議したい。



大場文裕議員

補助金・助成金の明確化を

広報紙に一括掲載などの対応を検討

問 大場 議員
現在、町では町民に
対し様々な補助金や助
成金の取り組みを行っ

ているが、種類や性格
も多岐にわたり、具体
的内容も曖昧で、所管
や事業ごとに縦割りに
なっている。

「何が利用できるのか」
「どこに申請するのか」

「どう手続するのか」
がわかりにくく、そも
そも多くの人が、第一
歩目の「何が利用でき
るか」でさえ知らない
まま利用する機会を逃
している。

4月に行った議員と
語る会の中でも、申し
込み方法や通知方法、
内容などをもっとわか
りやすく伝えてほしい
という意見があった。

利用したい人の側に
立ち、もっとわかりや
すく一括した情報を発
信することはできない
か。

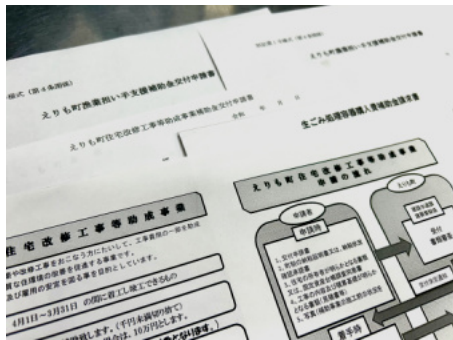
答 企画課長

現在、町民に対して
は出産や子育て、高齢
者福祉や障がい者福祉、
水産業や農業の担い手

支援、住宅改修工事へ
の助成、町づくり活動
事業など、多岐にわた
る支援を実施している。

それらは、事業ごと
に所管が異なっており、
それぞれの担当が支援
の情報を広報紙やホー
ムページ等で告知して
いるが、今後は利用者
の目線に立ち、転入の
多い春先の広報紙に一
括して掲載するなどの
対応を検討したい。

また、町のホームペー
ジについても、他の自
治体を参考に、わかり
やすい告知の方法を検
討したい。



町では町民に対し多種多
様な支援を実施している

問 大場 議員

エネルギー価格の高騰に対する支援を

町内の経済状況を見極め検討する

エネルギー価格の高
騰により、政府が昨年
1月に導入した電気・
ガス料金に対する補助
金制度が5月末で終了
した。

4月からは再エネ賦
課金も増額され、実質
賃金が25か月連続マイ
ナスとなる中、家計や
企業の事業活動にも大
きな負担になることが
予想され、さらに今年
は、昆布の不漁や引き
続き物価の高騰も懸念
される。

町内の経済状況を見
極めて、支援の必要性
を検討したい。

答 町民生活課長

これまでも、価格の
高騰の影響を最も受け
る住民税非課税世帯等
に対し給付金の支給を
行っており、当町独自
の支援策として、対象
世帯を拡大した給付も
行ってきた。

答 産業振興課長

町では、令和2年度
のコロナ禍以降の需要
減少、ロシアによるウ
クライナ侵攻や円安基
調による燃油や資材・
肥料の価格高騰で影響
を受けた一次産業事業
者及び商工業事業者等
に対し支援を行ってき
た。

国の電気・ガス価格
激変緩和対策が終了し、
いまだ燃油価格も高値
基調で、食料品や資機
材も値上げされ、消費
者にとっても事業者に

対し支援を行ってき
た。



電気料金は北海道が一番高い

昭和62年に完成した
国道拡幅工事と商店街
近代化事業から37年が

問 嗟峨 議員

問 灯台まつりの 更なる盛り上げのために

答 PR用のぼり作成を予定



嗟峨直樹議員

経過した。当時48あつた事業所は、現在18と減少している。

町のメインストリートである通称「スマイルタウン」ではイベント時には店舗をつなぎ、提灯を点灯していたが現在は行っていない。最大イベントである

「えりもの灯台まつり」の数週間前から街路灯のフラッグポールを利用して何かしらの装飾ができないか。

多くの観光客に周知されるとともに、集客アップやまつりの高揚感を演出できるのでは。

国立公園に格上げされ、観光客の増加も期待されるため、ぜひ実現を。

答 産業振興課長

灯台まつり実行委員会では、まつりPR用のぼりの作成を今年度予定しており、商店街組合に対し設置の協力を依頼し、少しでも灯

台まつりを盛り上げることができればと考えている。

また、令和7年度に灯台まつりは50回目を迎え、北海道市町村振興協会の「いきいきふるさと推進事業助成金」を活用したフラッグの作成も考えている。

国立公園格上げに対し、町としてどのように歓迎の機運醸成が図れるか、町内工商业者等と協議・連携しながらPRを進める。



「えりもの灯台まつり」開催時に提灯を点灯していたスマイルタウン

全員協議会 令和6年6月3日 認定こども園開設に向けた検討を開始

町内唯一の幼稚園である「光の園幼稚園」が、園舎の老朽化及び園児数減少などで、今後安定的に経営を続けていくことが難しいことから、令和8年度末（令和9年3月31日）をもって閉園することが学校法人本部の理事会で承認された。

町ではこれまで光の園幼稚園と複数回協議を重ねてきたが、幼稚園閉園後の幼児教育の場として、令和9年4月1日から町立認定こども園の開設を検討している。

建物は町立中央保育所を活用し、認定こども園への移行を含め、今月から開催する保護者懇談会にて、意見交換をする予定である。

また、えりも岬と庶野の各保育所の今後のあり方を、小学校PTA会長や自治会長も含めた地域懇談会で、統廃合について議論を進めていくことを考えている。

最終的に年明けには、えりも岬と庶野地区の方向性を地域に決定してもらい、来年2月に開催する「えりも町子ども・子育て会議」での審議を経て、町としての方針が決まる予定である。



令和9年3月31日で閉園となる「光の園幼稚園」

〈議員の意見〉

問 保育所の入所基準に満たない乳幼児は、認定保育園に受け入れ可能か。

答 3歳児以上であれば可能である。

問 認定こども園になった場合、幼稚園児が通う教室と保育園児が通う教室はどのようになるか。

答 同じ部屋で、幼稚園児と保育園児が同時に教育も保育も受けることとなる。

問 光の園幼稚園の職員の動向は。

答 希望があれば町職員として受け入れ可能である。

所管事務調査

総務文教常任委員会	産業民生常任委員会
委員長 橋本維広	委員長 高松亮裕
副委員長 神田 修	副委員長 中野公浩
委員 川村一治	委員 成田一人
竹内孝文	上野陽司
大場文裕	嵯峨直樹
	議長 石川昭彦

調査日 令和6年5月27日（月）

ブルーカーボン事業の経過について

「ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（JBE）」から認証を受けたJブルークレジットが8社に売却されたことから、その売却に至るまでの経緯を確認するため、再度調査を行った。

町は昨年度から北海道開発局、寒地土木研究所、北海道大学及びえりも漁協とともに、ブルーカーボン生態系による二酸化炭素吸収量調査を開始している。

その調査でJBEが認証した二酸化炭素は60.4tとなり、昨年12月から本年2月まで1口9900円で公募されていた。

購入した8社は道内だけでなく道外の企業も含まれている。

昆布業者の減少と温暖化によるコンブ生育状況の変化などで難しい面も出てくるかもしれないが、さまざまな方面から対策を進め、本事業を継続してほしい。



「Jブルークレジットに認証されているコンブを増やす「雑海藻駆除事業」

映画「北の流水」（仮題）の進捗状況について

昨年12月時点における総製作費は4億9500万円で、内訳は制作費が4億700万円、フィルム代や広告宣伝費などのP&A費が8800万円で、いずれも税込みの金額である。

寄付、出資金及び協賛金を募っており、5月20日現在で約3億2400万円が集まった。

エキストラの募集を始めているのか…



さらに文化庁の補助金も申請する予定であると担当課から説明を受けた。

なお、すでに実景撮影等のため、約3000万円が支出されている。

クランクインは本年9月からの予定であったが、田中光敏監督より主演俳優のスケジュールの都合で来年春に延期したいと打診があり、4町（えりも町、様似町、浦河町、広尾町）は了承している。

ただ、これ以上の延期はしない考えであることを田中監督に伝えているとのことだが、何度もクランクインが延期され、映画に対する町民の関心が薄れていると感じる。来年のクランクインが確実にできるように協議をしっかりと行ってほしい。

町道高校通り線改良工事について

災害時におけるえりも高校までの避難経路充実のため実施されている町道高校通り線改良工事は、3年計画で進められてきた工事が本年度で完成するにあたり、整備状況を確認するため改めて調査を行った。

高校側から旧しゃくなげ公園入口方向に向かって順に工事が進められ令和4年度は100メートル、令和5年度は105メートルを施工し、最終年度の今年度は185.73メートルの予定である。

歩道も設けられ、舗装もされて秋には完成される。

町道の山側が土砂捨て場として利用されているが、当初の予定地よりも近い場所であるため、半分の費用で済み、結果的に広く平らな土地ができており有効活用が期待されるが、活用の際には高さがあるため落下防止のための措置を行ってほしい。



緩やかに中学校側に向かって行く町道高校通り線

歌別地区

出席人員9人 担当議員 竹内・上野・橋本・大場

- ①漁業担い手支援補助金の詳細説明を
- ②2050年、昆布枯渇危機への対策を
- ③赤潮被害に対する寄付者にウニの返礼品でお返しを
- ④映画のクランクイン延期、早期開示を
- ⑤漁港浚渫（しゅんせつ）の毎年実施、ほかに良い方法は
- ⑥議員と語る会、開催時間を18時からに

東洋地区

出席人員11人 担当議員 竹内・上野・橋本・大場

- ①漁業担い手支援補助金、トラック等の車両も補助対象に
- ②赤潮対策、ウニ種苗放流補助の延長を
- ③坂岸付近、道路にかぶさる枝切りを
- ④えりも高校魅力発信等で町外募集の促進を
- ⑤焼却炉維持管理、広域化を含め検討を
- ⑥旧東洋小の今後と備品の払い下げは
- ⑦交流館ひなたの活用方法の再考を
- ⑧旧東洋小の遊具腐食、東洋生活館前に新設
- ⑨郷土資料館、入館者の増加対策を
- ⑩診療所、安心して受診できる体制を



えりも岬地区

出席人員3人 担当議員 石川・成田・神田

- ①ふるさと納税、工夫して増額目指せ
- ②2月低気圧で沈下した護岸の修繕を
- ③学校遊具、いつ、どんな遊具が設置
- ④襟裳神社下の道道草刈り、委託業者で
- ⑤ブルーカーボンの販売額と今後の見通しは
- ⑥未婚の若い漁業後継者のため交流イベントを

庶野地区

出席人員7人 担当議員 竹内・上野・橋本・大場

- ①議員と語る会、女性の参加拡大を
- ②住宅改修補助金、塗装も対象か
- ③バス停の清掃の徹底とドアの改修も
- ④百人浜にトイレを
- ⑤一人暮らしの高齢者の除雪対応を
- ⑥今後の人口減少の推移と税収減は
- ⑦定住についての方策は
- ⑧広尾町のようにハンターの移住を
- ⑨昆布おかまわり、共同でできないか

目黒地区

出席人員7人 担当議員 川村・高松・中野・嵯峨

- ①広尾国保病院との連携で迅速な救急搬送を
- ②豊似湖にいたる道道部分の定期的補修を道に強く要望を
- ③豊似湖にいたる正規ルート of 早期開通を
- ④交通弱者のために通院・買い物などの移動手段確保を
- ⑤医師の出張月1回維持を



令和6年度 議会報告会

議員と語る会

コロナ禍で中止となっていた「議会報告会 議員と語る会」を4月15日から23日までの間、町内9地区で開催しました。

各地区から68名の町民が出席され、72件の意見・要望が出されました。出された意見・要望は議会で検討し、町へ要望できるものは積極的に要望していくことを確認しました。

近浦地区

出席人員12人 担当議員 石川・成田・神田

- ①灯台公園トイレ、利用者目線でより良い施設に
- ②避難所新設と避難路整備の早期実現を
- ③シカとアザラシの捕獲拡大とシカのフン問題の解消を
- ④国道越波の早期解消を
- ⑤公営住宅・町営住宅、漁業担い手に安価入居を
- ⑥陸上養殖で育てる漁業の推進を
- ⑦老人養護施設等の入所基準見直しと職員不足の解消を



笛舞地区

出席人員9人 担当議員 川村・高松・中野・嵯峨

- ①獣医の町内常駐を
- ②既存の昆布業者の干場拡大や小屋建替等に1/3でも補助を
- ③デマンドバスの導入を
- ④町外で活躍する町民の広報紙掲載を
- ⑤安心安全のため医療体制の充実を
- ⑥津波避難施設の早期建設を
- ⑦中央牧場の異臭解消を
- ⑧農漁業に就労する地域おこし協力隊を
- ⑨映画PRの強化促進を
- ⑩広報紙の成人式表紙をカラーに

大和・西えりも地区

出席人員3人 担当議員 川村・高松・中野・嵯峨

- ①津波襲来時の避難施設の早期建設を
- ②日赤病院の医師・看護師の確保を
- ③やまと苑の人員確保で安心して暮らせる町に
- ④高齢者の働く場所の確保を
- ⑤遊具の充実を
- ⑥ふるさと納税返礼品の充実を
- ⑦急激な人口減少で町村合併の議論も

本町・新浜地区

出席人員7人 担当議員 石川・成田・神田

- ①農業・漁業担い手支援補助金の周知を
- ②プレミアム付商品券、クーポンとセブンイレブンでの使用拡大を
- ③災害発生時の孤立化を解消する代替道路の確保を
- ④クーポン前の駐車による交通事故が心配
- ⑤高速道路、えりもまで延長ない理由は
- ⑥診療所の損失問題は
- ⑦追分峠の旧肉牛牧場への道路整備無駄では
- ⑧昆布おかまわり不足のため児童生徒の夏期部活を休止に
- ⑨帯広・苫小牧等遠方への通院に1/2助成を
- ⑩映画の進捗、町民に詳細な説明を
- ⑪町道のセンターラインが消えて通行に支障
- ⑫ちゃっぷの湯、窓からの景観向上のために高校通り線のシャクナゲ・ツツジ移植を

7月1日：行政視察 増毛町「鉄鋼スラグを利用した藻場再生事業」

令和6年7月1日、増毛町役場にて藻場再生事業の視察研修を行った。

増毛町では、進行する磯焼け対策として、平成16年から日本製鉄（株）と協力し、鉄鋼スラグを活用した藻場再生の実証実験を行っており、町内各地区の海岸や海中にビバリーユニット（鉄鋼スラグ+腐植土）と魚粕を混合させた施肥材17.3トンを投入し、モニタリング調査を実施している。

さらに、以前から増毛漁協と協力し平成12年度から22年度まで各地区前浜のコンブを再生させるため、発酵魚粕を用いた施肥事業も展開しており、藻場再生事業としては平成30年に一部の海岸でコンブ場の形成がみられ、近年では藻場の再生によりニシンの群来が確認された。

事業の取り組みから20年が経過し、一部の地区では前浜の磯焼け防止が図られているが、いまだ全地域の磯焼け解消には至っておらず、今後の藻場づくりに向け継続的に連携した事業展開が必要であり、この取り組みが今後、ブルーカーボン事業へ波及するのを期待しているとのことであった。

現在、増毛町では「まちづくりプラン・総合戦略」として、自然の恵みを活かす町づくりを基本構想に漁業を中心として様々な支援や対策を推進しており、鉄鋼スラグを活用した藻場再生もその事業の一つである。

ニュースや新聞の記事ではわからない現地の苦労や、リアルな実情を増毛町長をはじめ、各関係者から直接聞いたことが今回の視察の大きな成果であり、同じ漁業のまちであるえりも町もいずれ直面する可能性のある大きな課題だと感じた。
(大場)



磯焼けした場所が鉄鋼スラグの投入により藻場が再生しているのがわかる

7月2日：北海道町村議会議員研修会

令和6年度の「北海道町村議会議員研修会」が7月2日に札幌コンベンションセンター（白石区東札幌）で開催され、当町の議員8名をはじめ、道内144町村から1500名余りの議員が参加しました。

研修では、気象予報士の森朗（もりあきら）氏の「札幌が東京より暑くなる!?」と、元衆議院議長の大島理森（おおしまただもり）氏の「人口減少と市町村の重要性、民主主義について、自省を含めての所感」の2つの講演を聴きました。

森氏は温暖化による異常気象や、今後予想される現象などについて語られました。



次に大島氏は議会人のあり方、議長の方、議会人の待遇、政治の根底にある民主主義の大切さ、多面的で広域的なまちづくりについて語られました。

どちらの講演も興味深く沢山のことを学ぶことができました。

今後の議員活動に役立つ貴重な時間となりました。
(中野)

7月3日：行政視察 札幌市「不登校特例校 星槎もみじ中学校」

7月3日札幌市厚別区の私立星槎もみじ中学校を視察した。

全国30万人と言われている不登校の生徒を受け入れ、通信制の高等学校を併設した、北海道で唯一、文部科学省認定の不登校特例校である。

この学校は、公立の学校とは異なり、1クラスを14～20名の少人数学級（学年3クラス）とし、「人を認める」「人を排除しない」「仲間をつくる」という3つの約束のもと、生徒に寄り添った特別な教育課程を編成している。

年間の授業時数は1015時間と公立の中学校と変わらないが、国語・数学・英語を週1時間ずつ少なくし、学習に対する自信をつけ、やる気を引き出すために、一人ひとりの理解度に合わせた個別学習「ベーシックの時間」を週2時間設けている。



校舎は札幌市から旧もみじ台小学校を買い取り使用している

議員からの様々な質問に丁寧に答えてくれた澤口校長。国会議員や道議会議員、札幌市議会をはじめ、道内や全国各地から視察が絶えないという



そのほか、週3回の「クロスタイム」という授業では3学年縦割りの選択授業を開講し、自分のやりたいことを選んで、学年を超え交流しながら学び合う場を設けている。

年間を通して対面授業とオンライン授業を併用し、登校が難しい生徒にも、授業参加の機会を失うことがないように配慮している。

同校は全道から生徒を受け入れており、札幌市が72%、他の地域からが28%で日高管内から入学している生徒もいた。地元の学校になじめず、転校してくる生徒が20～30%を占

め、主に2年生の1学期に多いとのことである。

今後の課題として、個々を尊重したきめ細かな授業や個別指導計画の作成、また、保護者を交えて「みんな」で支える生徒中心の環境づくりなどを行っているが、これらの取り組みに賛同し、実践してくれる教職員の確保に苦勞されているようであり、より一層の処遇改善が望まれるだろう。

また、私立であることから年間60万円以上の教育費がかかるため、公立の学校と比較すると保護者の負担が大きい。

今回の視察研修を終え、星槎もみじ中学校の実践の一部でも公立の学校で取り入れることができないか、それにより少しでも不登校生徒が減り、いきいきとした学校生活を送ることができればと思った。（嗟峨）

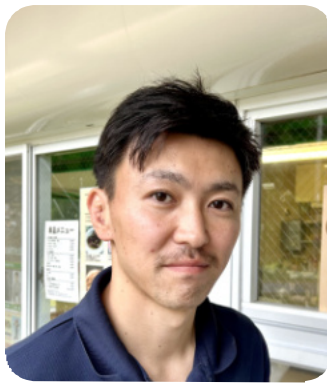


教室では生徒たちが自由な服装や姿勢で授業を受けていた。生徒が望めば授業以外の場所でも先生が付き添ってタブレット等を使用し授業が受けられるようにしている

この人に聞く

地域おこし協力隊

さっか やすし
属 康 さん (34)



福岡県福岡市出身。北海道大学を卒業後、大手石油会社に就職し全国各地で勤務。その経験をもとに今年4月、株式会社FoundingBase（ファウンディングベース）に転職、地域おこし協力隊としてえりも町へ。百人浜オートキャンプ場に勤務しながら、妻とまもなく2歳になる息子とともに町内で生活。

▼えりも町に来た経緯は

私の所属している会社は、全国20か所以上の自治体と一緒に観光や教育、町づくり等の取り組みを実施しているベンチャー企業です。以前から自分の中で「地

域の魅力を高める仕事がしたい」という思いが強くあり、そうした中でこの会社に出会いました。

小学生の頃に初めて来た北海道旅行での経験が忘れられず、北海道に住みたいという想いから、大学は憧れていた北海道大学を選び、前職でも4年間北海道に住みました。

北海道にはまだたくさん魅力があり、今度は自分が北海道で伝える側として関わりたいと思いい、会社に希望を出していました。

そうした折に、えりも町の地域おこし協力隊として活動させていただくことになりました。

▼えりも町の印象は

人情味がある方が多いと感じています。

近所の方やキャンプ場の皆さんから家族を含め暖かく受け入れていただき、子育て環境としてもえりも町を選んで良かったと思っています。

また、以前から期待はしていました。食べ物の美味しさが想像以上でした。

▼現在の活動内容は

百人浜オートキャンプ場の受付・運営検討とキャンプ場を中心とした交流人口拡大のための現地調査および検討です。

▼これからの目標は

まずは、今後も長く持続可能なキャンプ場とするために、運営や設備面の見直しも含めた対応が必要だと感じています。

そして、一番の目標は、これを皮切りに、えりも町にある地域資源の魅力を高め、価値を感じていただく方を増やす検討や提案をしていきたいと思っています。

▼えりも町民へ一言

現在、様々な企画を検討していますが、えりも町に来て間もないため知らないこともたくさんあります。ぜひ皆さんの考えるえりも町の魅力を教えてください。また、まだまだ地元の方の利用は少ないので、気軽にキャンプ場に遊びに来ていただければ嬉しいです。（取材 大場）



キャンプ場内では地元の特産品も販売中

議員雑感

議会だよりが50号を迎えました。2012年に創刊号が発行され、日高山脈襟裳十勝国立公園が成立した今年、12年目での到達です。

当時、町民から「議員がどんな活動をしているのかわからない」との声があり、議員で協議した結果、「議会だより」の発行と「議員と語る会」の開催が必要との結論に達しました。

議会だよりは、議員自ら企画・編集し、一字一句を委員全員で考え、「より多くの町民に読んでもらえる」ことを最大の目標として頑張ってきました。

今後も、より良い紙面作りに努力し、町民と議会の距離を少しでも縮めていきたいと思っています。ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。（高松）

広報広聴常任委員会

- 委員長 竹内 孝文
- 副委員長 上野 陽司
- 委員 高松 亮裕
- 中野 公浩
- 嗟峨 直樹
- 大場 文裕

議会の動き

5月27日	二常任委員会合同所 管事務調査特別委員会 議会議改革特別委員会
6月 3日	全員協議会
6月11日	北海道町村議会議長 会定期総会（議長）
6月15日	札幌えりも会
6月21日	全員協議会 第2回定例会 広報広聴常任委員会
7月1 ~3日	全道議員研修 行政視察
7月10日	広報広聴常任委員会
7月19日	広報広聴常任委員会
7月23日	広報広聴常任委員会